

学べる症状シリーズ

Vol.3



人間の皮膚は45℃以上の温度で熱傷になります。45℃で約1時間70℃の場合は1秒で組織の崩壊が始まります。また、暖める以外にも低周波等の電気治療も熱傷を発症する要因となります。

【熱傷の分類】

熱傷の重傷度は深さと面積で決定されますが、その程度は熱の温度と時間によって決まります。

☆重傷度による分類

深度	傷害組織	外見	症状	瘢痕
I度	表皮・角質層まで	発赤、充血	痛み、熱感	残らない
浅達性II度	表皮・有棘層 基底層まで	水疱、発赤 腫れ、湿潤	強い痛み、灼熱感 知覚鈍麻	ほぼ残らない
深達性II度	真皮・乳頭層 乳頭下層まで	浅達性II度と ほぼ同じだが やや白くなる	浅達性II度と 同程度だが知 覚鈍麻が著しい	残りやすい
III度	真皮全層 皮下組織	壊死、炭化 乾燥、白い	無痛、知覚なし	残る

☆原因による分類

- (通常の) 熱傷…熱湯、火焰、蒸気などの熱による損傷。
- 化学熱傷…強酸、強アルカリなどの化学薬品による損傷。
- 電気熱傷…電流による損傷。
- 放射線熱傷…放射線による損傷。日焼けも厳密に言えば熱傷である。
- 低温熱傷…低温熱源による損傷。長時間の低温熱源の直接接触により受傷する。発赤や水疱形成だけに見えても深部に深い損傷を負っていることが多い。

【処置】

施術中に熱傷と判明した場合、応急処置として「患部を1秒でも早く、水で、冷やすこと」が推奨されています。
 まずは手近にあるコップの水などをかけ、流水や濡れタオルで15分以上冷やし、その後は速やかに専門医の診察を受けることをお勧めします。利用者が帰宅された後に連絡を受けた場合は「すぐにも専門医の診察を受けること」を勧めることが望ましいことです。
 浅達性II度程度までの熱傷は、受傷後2週間の処置が適切であれば、ほとんどの場合は気になるほどの後は残らないといわれています。ただし、利用者の体質により回復が遅く、治療開始後6ヶ月を経過してもケロイド状のままというケースもありますので注意が必要です。自己判断の治療(市販薬やアロエ等の利用)はその後の治療の妨げになる可能性もあるのでお勧めできません。

【瘢痕】

熱傷による治療事故の特徴としては、利用者が治療開始直後に瘢痕が残ることを前提とし、色々なケースを想定した請求をしていくことです。上記の通り瘢痕が残る可能性は低く、治ってさえしまえば怒りがおさまるケースが多くみられます。しかし、特に女性の利用者の場合等は、人の目にふれにくい箇所であっても軽度の瘢痕が残れば気になり、賠償を要求することも十分考えられます。
 ところが逆に、賠償責任という観点からみれば、一部のケースを除き、後遺障害第十四等級(*1)に満たないものは、後遺障害慰謝料の支払い義務が発生しない、ともいえる場合があります。
 これらの双方での温度差が、示談交渉における障害の対象となりますので、利用者への「心のケア」も大切な対応のひとつであるといえます。

(*1) 後遺障害第十四等級(一部抜粋)
 上肢の露出面にてのひらの大きさの醜いあとを残すもの
 下肢の露出面にてのひらの大きさの醜いあとを残すもの
 男子の外貌に醜状を残すもの

熱傷に関する事故の相談もJHAに数多く寄せられます。その原因は灸だけではなく電気治療における事故もみられます。一般的な手技療法の治療のケースでは重傷度が浅達性II度までのものがほとんどです。ただし熱傷は瘢痕が残ることもあり十分に注意が必要です。

JHA NEWS

・無料相談(アドバイス)・手技療法に関する情報提供・当会ホームページへの求人情報の無料掲載・賠償責任保険の適用

国家資格者
 会員種別
正会員A 準会員

すべての手技療法家、施術家に
安心・安全を提供します

民間資格者
 会員種別
正会員B

入会金無料

【ご不明な点・詳細につきましては、お気軽にお問合せ下さい】

JHA 有限責任 日本治療協会
中間法人

URL: <http://www.jha-shugi.jp>

© JHANEWSのバックナンバーはホームページでご覧いただけます ©

TEL: 03(5289)8171

FAX: 03(5289)8173

TEL 受付: 10:00 ~ 18:00 (平日)

FAX 受付: 24時間年中無休

郵送先 〒101-8691 東京都神田郵便局 私書箱46号

E-mail: info@jha-shugi.jp